
少年少女たちのココロ

紅葉寺 惺麗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年少女たちのココロ

【Nコード】

N2929D

【作者名】

紅葉寺 惺麗

【あらすじ】

関西に住む中学生“ヨモギ”はバンドを組んでいる。メンバーは男子3人・女子1人。その女子とは、幼馴染の“トロ”の事だ。ヨモギとトロ、2人のキモチを描いた青春記。

プロローグ

また、信号に待たされていた。

これで、登校中にある信号機は 全て俺を待たせた事になる。

もちろん、バスに乗っていた時もそうだった。

俺の家は、田舎にあつて、学校が少ない。

だから、バスで学校に通っているのだ。

・・・じゃあ、信号を待っている間、自己紹介をしよう。

ボクの名前はヨモギ。 へんだろっ？

ああッ 急がなきゃ。アレが『青』になったから。

プロローグ（後書き）

読んで下さった彼方に感謝の気持ちを送ります。

第ヒトトキめ。＊キラキラ（前書き）

楽器の専門用語がでてきます。意味が分からなかったら、御免なさい。それでは、どうぞ。お読みください。

第ヒトトキめ。＊キラキラ

ギブアップ。

見事な遅刻っぷり。

先生に睨にらまれた。

『さいあく。』

ココロの中で舌打ちした。

今日は雨が降っていた。

だから、何時いつももより10分も早く家を出たんだぞ。

・・・で、バスを降りたらカサのやつ。

ボキッていいやがった。

風が強かったからだ。

（おかげで学ランが気持ち悪くて。

しかも髪の毛は俺の頭にピットリとくっ付いていた。畜生（ツ））

5

放課後になると、遅刻者は反省文を書いて、

クラスメイトの前で発表する事になっていた。

そんな面倒な時間 皆に笑われてしまった。

俺はただ、『信号機のせいで遅れました』って

言っただけだ。　　ブウ。

『ようッ　信号に待たされたって!?!』

ミツがニヤニヤしながらやって来た。

コイツ。　“真藤マトウ 蜜ミツ” は、

俺と同じバンドの仲間で　ベースをしている。

『ああ。』

ミツが俺の答えを笑顔で返してきた。

『アンタ等。何？ ヨモも早よう楽器出して来いや。』

『何の曲すんの？』俺は“梅野^{ウメノ} 蓬^{ヨモギ}”

だから、“ヨモ”と呼ばれている。

『曲は何でもええわ。アンタに任せる。』さつきから俺と話してるのは

“満永^{ミツナガ} 漣^{トロ}”（コイツもある意味ミツや。（笑））

は ドラムをしている。小さい頃からやっている。

プロのドラマーの父親を見て育った子だ。

『何でもええって、ソレ困るわ。』

『何でやッ』

トロから、ドラムのタムとシンバルの間から*スティックで突かれた。

（*ドラムを叩くバチの事）

トロはシンバルの位置の調節中だった。

俺がさつきから自分の楽器を出さないのは、俺の担当する楽器が曲によって違うからだ。

（ギター or 鍵盤 そして、たまにボーカル。）

で、全部だそうつつつても、

今俺らが居るのはトロの家の防音室（7条）で、棚やらドラムやらと、ゴチャゴチャしてて狭い。

『ああ もーええわ。>ドライ・バードくにせえ。』とミツ。

『そーいえば、ナツがまだやなあ。』頷^{うなず}きながらトロ。

“ナツ”とは、“柳川^{ヤナガワ} 捺詩^{ナツシ}”という男だ。

ギター・サックス・トランペット・・・何でもする。

ジャズ系には持って来いな人材だ。

『俺、探して来るわ。』なんて俺。

『いつてらー！お風呂沸かして待ってるで』

『キモチ悪いツミツ。今度言ったら しばくっ』

『ちえっ 一緒はいる思てたのにい。』

・・・トロの方をチラッと見た。

顔を見合わせて少し笑お。思てた。

でも、トロは防音室の分厚いガラス窓の方を向いていた。

夕日に照らされたトロは、キレイな夕日色に輝いて見えた。
そう、とても綺麗な夕日色。

太陽の色。

輝いているトロの顔は、その影になっていて、
よく見えなかった。

たった一瞬。
時間がピツタリ止まった様な気がした。

トロを見ている間の0.5秒が、とても長かったと思う。
そのスキに、カップラーメン出来ちゃうんじゃないの。

俺はその、0.5秒の3分間な間、
ずっとトロを見ていた。

そんな俺・・・。

ガチャン。

ドアの開く音。

ゴツッ。

俺の身体からだとドアがぶつかる音だ

この音を2つ合まとめて、ナツが部屋に入って来る音という。

ナツの髪は長めで、サラサラしている。

(トロには負けるけど。)

目は男らしいんだけど、ってか

“モテ男” ってゆーの。こういうんは？

『ちあーっす』 ホラ。ナツが来た。

ダラダラしながら入ってきた。

『ナツう。なんや 今日遅かったなあ。』 ってトロ。

『先生に怒られた。ノート破つただけなんに。』と自覚0のナツ。

『馬鹿ナツ。』 とトロ。

2人ってこんなにコトバのキャッチボールするっけ？ って俺。
ぶうって俺。

コレってヤキモチになって俺に言う俺。

『さ・て・と。始めるで、ドライバード。』 ってミツ。

ジャーンツツ コレが俺等のバンドだ。

大好きなバンド、“オムレツ&オムライス”
略して(?) “ケチャ(ツプ)”。

・・・日本人5人のふざけたバンドだ。

面白い曲もあれば、ゆったりした曲もある。

ジャズ系、ロック系。 まだまだ。

とにかく、何でも歌う。 と思えば、

1曲の中に、いろんなタイプのメロディーを入れる事も有る。

その“色々”が、

ドライ・バード。

とにかく、カッコ良い。

『あああッえッ演奏中止やッ』トロが叫んだ。

『うあッ寄って来んでー！！誰かッヨモッ助けてえッ』

ハテナマーク。

何があったん、トロ。

説明不足や。

『はッ蜂やッ。タムにッ大っきいの。』

すげえ。こーゆーのって以心伝心っての？

『タムって？ハイタム？サイドタム？

それともフロアタム？』って俺。

イジメてやった。

『ハイとサイドの真ん中やっ』

『ソレって*バスドラやん。』

（*ドラムの中心にある大きな太鼓

（足で踏んで音を出す）の事。）

と言ってナツがハンカチで蜂を包んだ。

良いことでは無いけど、その時、

ナツの雨で濡れた髪から水滴がポタポタと

ドラムに落ちていた。

雨はさつき止んだばかりだ。

こーゆーのって、“水もしたたる良い男” っての？ムキィッ

・・・で、ナツはそのハンカチを丸めて、窓から外へ投げ捨てた。

『ありがとな。ナツウー』 ってト口。

『まっな。俺、蜂^{むし}にはもう慣れっ子やかんな。』 ってナツ。

2人から視線を少し左ななめ下にずらして脹^{ふく}れる俺。

『なんや、ヨモは。ヤキモチさんか？』 なーんて、ミッ。

『そうなん？ヨモ』 ってト口。

水もしたたる良い男（水男）は、
前髪をぐわツとかき上げた。

話についていません的な目線で、

『ヨモはかわええなあ。』 ってさ。

『はぁッ何やッ水男ッ男にかわええ言っには無限年早いわッ』

『水男って何やあッ！？』

2人で殴り合って遊んだ。

チラリと窓を見た。

夕日がもう影しか見えない。

オレンジ色の影。

そのオレンジより上は、

もう星がバラついていた。

もうそこは、夜の世界。

神秘の世界になっていた。

でも、この部屋には、

わずかに太陽のオレンジが降り注いでいた。

太陽と俺は、少し会話をした。

『今日はヨモギさん。楽しそうだね。』

ボクがたくさん光をあげるよ。この部屋に。』

『ありがとう。でも、もう夜だよ。』

『そんなの。かまうもんですか。』ってね。

トロが口をはさむ。

『ほら、その2人 練習するで。』

太陽があるうちに、1回でもとうしたいんや。

ホラ、太陽も言っとするで。

………ホラな。言っとするやんか。』ってさ。

(この時トロのヤツ。こっち向いてニコっだって。)

『俺は何も聞こえんかったで!! なっナツ!!』ってミツ。

なんだ。トロも聞いてたんか。

ほお。さては 盗み聞きやな!?! - なんて。

ナツの振り上げた拳が、ストンと、落ちた。

俺の右肩に。 戦力を0にしたらしい。

ふと、ナツを見た。

ミツも、トロも見た。

3人とも、同じ空を眺めていた。

俺も見た。

わずかな夕日色がまた この部屋にあった。
皆で同じ空を見た。

『さ・て・とつ始めるで。』 っとトロ。
さつきも同じ様な台詞セリフ言ってたよな コイツ。
スティックが、 カン カン カン。 となった。

ジャーン!! またやり直し。
次はわずかな夕日の中で。

ドラムが皆をささえる。
ベースがリズムをとる。
サックスがメロディーを。
キーボードが伴奏を。

そして。

トロが息を吸う ミツも吸う。
俺も吸う。

そしてはき出す!!

俺がメロディー。

トロとミツがハモリながら俺の後ろで

小さく。歌う。

今。 4人の音と 3人の声が1つになった。

わずかな夕日の中で

第ヒトトキめ。＊キラキラ（後書き）

最後まで読んで下さり、

有難う御座いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2929d/>

少年少女タチのココロ

2010年11月10日10時50分発行